

国際アルゴ計画の今後を決める「AST-17」横浜研究所で開催

2016年3月24日

国立研究開発法人海洋研究開発機構

自動昇降型漂流ブイ、アルゴフロートの国際的な運用や今後の発展を議論する17回目のArgo Steering Team meeting(AST) がJAMSTECをホストとして、3月22日～24日の3日間、横浜研究所で開催されました。日本で初の開催となります。

会合ではアルゴフロートの海洋監視現況、データの配信方法、アルゴフロートの性能、アルゴ型の新規観測機器などに関する多岐にわたる情報交換が行われました。

JAMSTECからは大深度フロート「DeepNINJA」、生物地球化学センサー搭載フロートを駆使した「INBOX計画」、アルゴデータをはじめとする海洋観測を統合した「ESTOC」などユニークな研究成果が報告され、活発な議論が展開されました。

アルゴフロートの運用に携わる10ヶ国26機関から46人が参加し、今後の発展などに関する多くのアクションアイテムが提案されています。

JAMSTECの取り組み及びアルゴ計画の詳細については、下記サイトをご参照ください。

- [Argo JAMSTEC](#)
- [DeepNINJA](#)
- [INBOX計画](#)
- [ESTOC](#)

<関連プレスリリース・論文発表>

- [全球海洋観測システム「アルゴ」で明らかになった海洋の変化—Argoフロート観測網が15年の間にとらえた海洋環境の姿と拡張への取り組み—](#)
- [長期海洋環境再現データセットESTOCの再現性評価](#)
- [国産深海用プロファイリングフロート「Deep NINJA」が南極海での「越冬」に成功～南極底層水の昇温メカニズム解明に前進～](#)

